

医療維新

シリーズ 「医学部卒業後10-15年目の医師たち」～JCHO編～ »

医療維新

女性専用当直室や院内保育…「女性支援は当たり前」

結果を出す組織・グループに必要なのは「多様性」

オピニオン 2018年8月3日 (金)配信 独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 尾身茂理事長

「卒業後10-15年目の医師たち」と題し、医師の多様なキャリアを紹介する当企画。地域医療機能推進機構 (JCHO) の協力を得て進めている「JCHO編」の次テーマは「女性医師」です。JCHO理事長の尾身茂氏は、世界保健機関 (WHO) で約20年に渡り要職を務めた経験から「“結果”を出すような良い組織・グループを作るには多様性が鍵」、「働きやすい環境づくりなど、女性に対する支援は当たり前にはできなければならない」と語ります (尾身氏の略歴は [JCHOホームページ](#) を参照)。

「女性医師」記事一覧

Vol.1“パワフルな女医”が目標、求められて乳腺外科

論文にまとめて発表したわけではありませんが、WHOに約20年務めた経験から、結果を出すような良い組織・グループを作る鍵は「多様性」だと思っています。世界的には欧米人、とりわけアングロサクソン系は「グランド・デザイン」と呼ぶような大きな戦略を作るのが得意。一方、アジア人は、より細かい、各論を具体化するような作業に強い。日本の医療現場は現状、単一民族と言っている状態なので、人種の多様性を確保するのは無理ですが、ジェンダーミックスは可能です。



尾身氏

男性ばかり集まると、主義主張が前面に出て熱心な議論になりやすく、「結論を得よう」という推進力は強くなりますが、二者択一の議論に陥ってしまう場合もあり、生産的ではなくなる面があります。100%正しい意見、100%間違った意見、というのはほとんどなく、どのような意見にも聞くべき内容があるからです。反対に女性は、基本的に気配りなどがきめ細かく、会話・コミュニケーションが好きで、あまり面と向かって喧嘩をしません、女性だけで議論すると結論が後回しになることがしばしばあります。しかし男性も女性も、異性が同じ組織・グループ内にいると公の場では自重するのか、相互作用的にネガティブな面が出にくく、ポジティブな面が出やすくなります。WHOでも日本の医療現場でも、その傾向に変わりはありません。つまり、良い組織のためには働きやすい環境作りなど、女性に対する支援は当たり前にはできなければならないのです。

「当たり前」に女性医師を支援すべき



尾身氏

組織・グループに女性が不可欠というのに加え、社会のためにも、「当たり前」に女性医師を支援すべきだと思っています。医療の現場、さらに言うところ「医師」は女性にとって極めて良い職業だからです。男性にとってダメ、というのではなく、医学は少しずつ症例や訓練を積み上げていくという学問で、地道な作業の連続になるため、真面目に勉強できる人が多い女性に合っています。医学部生の女性割合が年々上昇し、今では約3割を占めるまでになったことも、向いているという一つの証ではないでしょうか。社会における自己実現を目指す女性たちにとって、医師という職業が偏見、差別なく、男女平等である、という事実は、もっと知られていいはずですよ。

例えば政治家や官僚・役人の世界は長く男性社会で、最近やっと女性を管理職に登用するなどの動きが出てきましたが、医療の世界では随分前から女性も重要な役割・立場を担ってきました。かつては良妻賢母のような社会規範的な考えが一般的で、働く女性自体が少なく、女性医師の絶対数こそ少なかったものの、私の知り合いの医師には「女性の先生が師匠」という人は何人もいます。医療の世界にはもともと女性が活躍しやすい素地があるのです。

31施設に院内保育所

私たちJCHOの病院には、31施設 (末尾の一覧を参照) が院内保育所を設置しているのをはじめ、女性専用の当直室を設けている施設 (下関、仙台、金沢) や、医局員一人一人に専用の休憩スペースを設けている施設 (高岡) な

ど、必要に応じた取り組み・施策を実行する文化があります。そもそも、女性医師に対する支援が特別だという意識がなく、ごく自然に女性医師のための支援、施策を実行していると言えます。JCHOが、旧社会保険病院、旧厚生年金病院、旧船員保険病院をそれぞれ運営していた、全国社会保険協会連合会、厚生年金事業振興団、船員保険会という3つの、言わば半公的な団体を統合して誕生した組織のため、そもそも法律を遵守しよう、労働者を大事にしようという文化が根づいています。それらを引き継ぎ、私が理事長になった当初から「女性にとっても魅力ある職場」を掲げましたが、異論は出ませんでした。

今、全国の医師は届け出数で約32万人。このうち女性は20.9%（約6万7000人）です。JCHOに所属する全医師数は約2800人で女性は23.6%（約660人）と、比較的たくさんの女性医師が働いてくれています。また、厳密な比較はできませんが、幹部になる女性医師も一般企業に比べて多くなっていると見ることもできます。帝国データバンクによると、一般企業で課長以上の幹部職員は女性が6.9%なのに対し、JCHOで仮に「課長以上」を「医長以上」とした場合、医師約920人中女性が13%（約120人）と、一般企業を上回っています。女性のための良い文化を引き継ぎ、一定の成果を出せていると思っています。



尾身氏

女性医師が困ることがないように、私自身も時々、現場の先生方と話す機会を設けていますが、要望があれば実現できるように動くので、大きな不満は出てきていません。最近では、「早く勤務を開始したら早く帰ってもいいように、勤務時間を柔軟に考えてほしい」、という要望をもらったので、進める方向で検討しています。社会的には、特に地方で医師が足りていない状況ですが、JCHOも同様です。引き続き女性が働きやすい職場を提供できるように努めていきたいと思っています。

「女性医師」記事一覧

Vol.1「パワフルな女医」が目標、求められて乳腺外科

[院内保育所を設置しているJCHO施設一覧]

No.	都道府県	施設名
1	北海道	北海道病院
2	北海道	札幌北辰病院
3	北海道	登別病院
4	宮城	仙台病院
5	栃木	うつのみや病院
6	群馬	群馬中央病院
7	埼玉	埼玉メディカルセンター
8	千葉	千葉病院
9	千葉	船橋中央病院
10	神奈川	横浜保土ヶ谷中央病院
11	神奈川	相模野病院
12	神奈川	湯河原病院
13	福井	福井勝山総合病院
14	福井	若狭高浜病院
15	岐阜	可児とうのう病院
16	静岡	桜ヶ丘病院
17	愛知	中京病院
18	三重	四日市羽津医療センター

No.	都道府県	施設名
19	滋賀	滋賀病院
20	大阪	大阪病院
21	大阪	星ヶ丘医療センター
22	兵庫	神戸中央病院
23	奈良	大和郡山病院
24	島根	玉造病院
25	山口	下関医療センター
26	山口	徳山中央病院
27	香川	りつりん病院
28	福岡	九州病院
29	福岡	久留米総合病院
30	佐賀	佐賀中部病院
31	長崎	諫早総合病院
	合 計	31施設

シリーズ [「医学部卒業後10-15年目の医師たち」～JCHO編～](#) »